

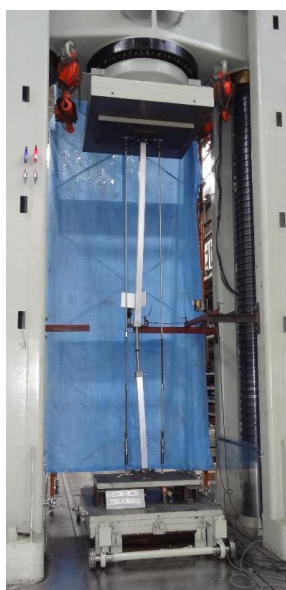
## 社 報



## なぜ整理・整頓なのか

## 失敗しました♪

アルミ鋼管をパイプサポートの代わりにしようと計画しています。耐荷重は5tが目標です。先日、日本建築総合試験所で荷重試験を行いました。写真のように座屈し、失敗しました。



改善策を考え再挑戦です。

当社だけではなく、どこの現場、どこの会社、どこの工場でも、決まり文句のように、整理・整頓が叫ばれています。

整理・整頓されている現場は、それだけで気持ちが良いですし、管理がなされていることが実感できます。

整理・整頓が苦手な人の中には、整理・整頓などしなくても、どこに何があるかは分かっているし、その時間があるのなら、時間を仕事にまわした方が効率的だと言う人もいます。

それはそれで、全否定はいたしません。やりっぱなしの状態でも、仕事を管理できる人は、相当に能力が優れているのでしょう。一般人にはとても無理なことです。

整理・整頓をうまく行うには、仕事の手順・仕事の量など、必要な情報が揃ってなくてはなりません。

いつ、どこから、どんな材料が、どれだけ入ってくるのか、その材料は、いつどこで使用されるもので、誰が担当するのかなど、多くの情報をきちんと把握することが必要です。この作業をきちんとこなさなければ、

整理・整頓はできません。

また仕事の後も、ゴミとなる材料はないのか、余った資材はどう保管するのかなど、事前に考えておかないといけません。

そうした準備・計画をしてこそ、整理・整頓はうまくいくわけで、そこをしないで整理・整頓しようとする、整理・整頓が仕事のようになってしまいます。

まわりくどい言い方をしたかもしれませんが、整理・整頓を心がけると言うことは、常に仕事の先を読み、計画を立てることができるということなのです。

これを逆に言うと、整理・整頓をうまくやるように心がけると言うことは、仕事の先を読み、計画を立てられる力が身につくということです。

単に、仕事場が片付いて、どこに何があるかわかりやすいと言うことではなく、計画を立て・実行する力、職業人にとって、無くてはならない力を身に付けるためにも、

## 整理・整頓

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 交通災害にも気をつけて

現場の行き帰りは、車を使用することがほとんどです。

当社でも、ここ数年は毎年のように、交通災害が発生しています。

幸いにも、大きな人身事故はありませんでしたが、人身事故につながりかねない事故は、いくつもありました。

現場送迎用の車には、大勢が乗っていますので、事故を起こすと、大勢の人が傷つく可能性もあるわけで、必ず防がねばなりません。

現場仕事で疲れている上に、さらに車の運転と負担がかかりますが、運転をされる方は「人の命」を預かる意識を持って、安全運転をお願いします。

## 2015年 安全成績

■現場災害 H27.1.1-H27.2.8	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
■交通災害 H27.1.1-H27.2.8	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0